

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S450004	株田昌彦	デッサン I	デッサンの基礎として、基本的な対象の捉え方や道具の使用法を踏まえ、対象の持つ質感、形態、量感、空間感といった造形要素について指導する。	芸術文化領域の全ての実技科目（絵画、彫塑、デザイン、工芸）の基礎として意義を持つ。	基本的な描写（対象の形態、質感、量感の描写）の技能を修得する。相対的な対象の明暗（正確なヴァールル）、対象の空間的な位置関係を表現できる事を目標とする。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S450012	株田昌彦	デッサン II	デッサン I で習得した内容（対象の基本的な捉え方）を基に、石膏像や人物の描写を指導する。また、作家のデッサンを紹介し、タブローとの関わりを明確にすることで、絵画における表現意図と描画法の関係について取り上げる。	芸術文化領域の全ての実技科目（絵画、彫塑、デザイン、工芸）の基礎としての意義を持つ。	石膏像や人物の造形的な特徴（プロポーション、質感、量感、空間感）を意識した描画が出来る。木炭によるデッサンを描き、鉛筆での描画と異なる表現の効果について理解する事を目標とする。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S453009	梶原良成	平面構成 I	美術の全領域および美術教育の基礎となる色彩の概論を教科書・教材を使って体系的に説明しながら、それに対応した実技課題を行っていく。あわせて、平面表現の基礎的技法について指導する。	美術実技の導入科目の一つとして、平面上の色彩の特性について理論と実技課題による実践により、美術の全般的な造形能力に対応する基礎力を身に付ける。	・色彩について、その本質や体系、心理や調和などの基礎理論を修得する。 ・基礎的な実技課題を通して、色彩の理論の実際について、制作法とその効果について理解する。 ・絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について修得する。	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S453019	梶原良成	平面構成 II	平面構成 I で修得した色彩に関する実技の成果を基に、平面空間について、色彩と形態の関係から構成していく実技課題を行う。平面表現の基礎的技法についてもさらに指導する。	美術実技の導入科目の一つとして、平面上の色彩の特性と形態の関係について実技課題を行って、美術の全般的な造形能力に対応する基礎力を身に付ける。	・色彩基礎理論について、課題を通じてさらに理解を深め、自己の平面表現に生かせるようにする。 ・平面空間の構成法について、色彩と形態の関係から理解し、与えられた条件を生かした平面表現をできるようにする。 ・絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について習熟する。	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S454007	松島さくら子	立体構成 I	イメージ・素材・空間・機能的な様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題、紙・スタイルフォームなどそれぞれ材質・加工要領の異なる素材を使用し立体物を形成していく課題を行う。	立体造形の基礎知識・技能を学習し、芸術の領域の専門基礎力を養う授業である。	・具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題を通し、イメージ・素材・空間・機能的な様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な理解力を養う。 ・素材の加工方法・表現方法を学び、立体表現の基礎技法を習得する。	0.4	0.0	0.4	0.1	0.1
S454015	松島さくら子	立体構成 II	イメージ・素材・空間・機能的な様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。自然物による立体構成・回転体による構成他、3つの課題に取り組み立体物を形成していく課題を行う。	立体造形の基礎知識・技能を学習し、芸術の領域の専門基礎力を養う授業である。	・定められた課題テーマを通し、素材の選定やその用途や形態のコンセプトを定め、そのイメージを形成するための基礎的な理解力を養う。 ・素材の加工方法・表現方法を学び、立体の基礎表現技法を深める。	0.4	0.0	0.4	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S452005	未定	彫塑Ⅰ	泥粘土を使用して自然物、人物をモデルにレリーフ作品を作る	美術文化領域の選択科目の一つとして、美術に関わる全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	●人間を含む自然物の観察力の向上。●表現能力と技術の習得をする。●教授能力を身につける。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S452015	未定	彫塑Ⅱ	泥粘土を使用して自然物、人物をモデルにレリーフ作品を作る。	美術文化領域の選択科目の一つとして、美術に関わる全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	●人間を含む自然物の観察力の向上。●立体表現能力と技術の習得をする。●教授能力を身につける。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S400010	高島章悟	ソルフェージュ	初見視唱、初見ピアノ演奏、リズム、聴音、鍵盤和声等の課題を随時実践する。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する科目。あらゆる音楽活動に必要な基本的な音楽能力(読譜能力・音楽聴取能力・楽典等の知識理解能力)を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて見た楽譜を準備なしで歌うことができる。(初見視唱) ・初めて見た楽譜を準備なしでピアノで演奏することができる。(初見視奏) ・楽譜に書かれたリズムを正確に再現できる。 ・演奏された音を聴き取り楽譜に記すことができる。 ・ピアノを使って和声の課題を実施することができる。 	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2
S401007	小原伸一	声楽Ⅰ	声楽に必要な演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえて、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力を高める。基礎技能の一つとして、各母音の自然な発声に重点を置いて響きのある安定した発声方法の獲得を目指す。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、声楽の基本を学ぶ。発声の基礎から声楽の演奏表現まで、声について理解を深め自己の技能を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができ、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる。 ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 	0.2	0.0	0.5	0.2	0.1
S401007	小原伸一	声楽Ⅱ	声楽Ⅰの学習内容を継続・発展して行う。声楽Ⅰと同様に、演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえて、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力をさらに高める。また、声楽演奏に関する基本について実技指導を行う。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、声楽の基本を学ぶ。発声の基礎から声楽の演奏表現まで、声について理解を深め自己の技能を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができ、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 	0.2	0.0	0.5	0.2	0.1
S402004	高島章悟	器楽	広く一般に行なわれている楽器リコーダー、ギター等の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、器楽の基本を学ぶ。	リコーダー、ギター等の実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の音楽活動の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を活動する上での基礎的な事柄をリコーダー、ギターを通して身につける。	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S402004	石田修一	伴奏法	ピアノの基礎的な技術を前提として伴奏に係わる様々な技能、知識等の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、伴奏法の基本を学ぶ。	伴奏法の実践を通して演奏のあり方を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の音楽活動をする上での土台となるものである。音楽を表現する上で必要な、アンサンブルの基本、楽器・声の理解、テキスト・楽曲の理解等の基礎的な事柄をピアノを通して身に付ける。	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0
S401050	新井 恵美	和声 I	作曲の基礎となる和声について、三和音基本位置の配置と連結、第1転回位置、第2転回位置、Vの7の和音を使用した課題の実施を行う。	作・編曲を行う際の基礎を修得する。	作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	0.6	0.1	0.1	0.2	0.0
S4101055	新井 恵美	和声 II	作曲の基礎となる和声について、和声 I の学習内容に加えて、Vの9の和音、IIの7の和音、ドッペルドミナントの和音を使用した課題の実施を行う。	作・編曲を行う際の基礎を修得する。	作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	0.6	0.1	0.1	0.2	0.0
S407005	高島章悟	合奏 I	合奏の基礎を実技を通して学ぶ。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、合奏の基本を学ぶ。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
S910106	中島 望	書法演習 A	書のさまざまな技法を古典臨書を通して修得する半期講座。書法演習 A では、図象文字から隷書体、その長い変遷の歴史と近代における古代文字表現を参照し、「模様的美・型的美」といえる時代の書（文字造形）を検証する。	書法演習 A は、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。なお、書の臨書は絵画におけるデッサンに通じ、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・古典臨書（写實的・表現的）の基礎的な表現能力を修得する。 ・古典研究を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S910203	中島 望	書法演習 B	書のさまざまな技法を古典臨書を通して修得する半期講座。書法演習 B では、六朝の書から隋・唐代の書へ。公的書体「楷書」と私的書体「行書」の過渡期を参照し、模倣性から個人性への時代思潮をふりかえりながら、「楷書の本質」を考察する。	書法演習 B は、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。なお、書の臨書は絵画におけるデッサンに通じ、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・古典臨書（写實的・表現的）の基礎的な表現能力を修得する。 ・古典研究を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S910300	中島 望	書法演習 C	書のさまざまな技法を古典臨書を通して修得する半期講座。書法演習 C では、中国漢代以降の草書「章草」から近代の草書「近草」の臨書、さらにはわが上代様を中心とした仮名の臨書を進めながら、草書体とその書風の変遷を総合的に観る。	書法演習 C は、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。なお、書の臨書は絵画におけるデッサンに通じ、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・古典臨書（写實的・表現的）の基礎的な表現能力を修得する。 ・古典研究を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S910408	中島 望	書法演習D	現代の書のあり方と未来の書の表現形式を模索する半期講座。書法演習Dでは、「調和体」、「近代詩文の書」、「漢字かな交じりの書」と呼ばれる現代の書を検証しつつ、さまざまな視点から新しい時代の書表現のあり方、存在方式を実践的に考察する。	書法演習Dは、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。現代の書の表現は、さまざまな形式を持ちはじめている。それらの方式論の検証と新時代の表現形式は個人の創造性に委ねられる。	・今日的表現形式を観照し、その表現技法、特に構成力を修得する。 ・現代書の研究を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S910505	中島 望	書法演習E	書のさまざまな技法を修得する半期講座。書法演習Eでは、篆刻実習を通して、刻された文字、鑄込まれた文字などがもつ模様の美的本質を探究する。書の本質が最も顕著に現れる工芸性について検証する。	書法演習Eは、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。なお、書の工芸的表現は制作の行程から、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・古典的作品(遺物)を通して、その基礎的な表現力を修得する。 ・古典研究を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S455000	本田悟郎	美術理論	美術理論では美術とは何かという根本問題を扱う。美術を理解するための重要な事項として、美術概念の変遷、モダニズムとアヴァンギャルド、作品受容、美術と社会に関する諸理論などを講義する。	総合人間形成課程の芸術文化領域専門科目であり、理論的な側面から、美術と社会の関わりについて関心と理解を深めることに対応している。	美術理論を通して表象文化への関心を深め、今日の社会における美術諸領域のさまざまな活動に欠くことのできない基礎的な素養と論理的思考を養うことを目標とする。	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1
S474004	梶原良成	デザイン理論	人類史上におけるあらゆるもの・空間の創造を概観していくことで、デザインの本質を探究する。また具体的なデザイン作品を取り上げ、様々な角度から分析検討してデザインプロセスを解きあかすことでその作品とデザイン思考の関係性について考察させる。	ものづくり・空間づくりを歴史的実例で学んで、社会の中での美術の位置付けを理解し、さらにその意味を検証させることで、社会的な意味における美術の存在意義の理解を深める。	・人間がどのようにモノ・空間をつくってきたか歴史の実例に学んで、社会のなかでの美術の位置づけについて理解する。 ・現代の生活を形づくるモノ・空間について多様な観点から分析・鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるようにする。	0.2	0.2	0.2	0.1	0.3
S477003	松島さくら子	工芸理論	この講義では、各種工芸素材が、具体的にどのように用いられ、どのような工芸作品が生み出されてきたか、またどのような役割があったかを概観し、それらの工芸の多彩な表現を知ることにより、これからの工芸の可能性を探っていきたい。	工芸IIaまでに経験した工芸表現をさらに応用し深め、専門性を深める授業である。	・各種工芸の歴史変遷を学習し、工芸のなりたちや歴史的役割、多彩な表現を理解する。 ・レポート課題を通じ、これからの工芸の展望・表現の提案をおこなうことで、各自の工芸についての理解を深める。	0.3	0.3	0.1	0.1	0.2
S461005	本田悟郎	美術史	西洋と日本の美術変遷を概観する。また、美術史の通史理解に留まらず、特に近代以降の美術概念の変遷を主要な論点として講義する。	総合人間形成課程の芸術文化領域専門科目であり、美術史を軸に文化形成への関心と理解を深めることに対応している。	美術史研究を通して、美術理解を深めるとともに、表象文化への視野を広げ、社会における美術諸領域のさまざまな活動に欠くことのできない基礎的な素養を養うことを目標とする。	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S485006	山口喜雄	造形教育論	A：造形教育概念の把握とその可能性を考える、B：子どもを軸にして造形教育像をさぐる、C：造形教育とその外延までもとらえる、以上の3部構成で受講生の造形教育への現状理解の発表と講義という方式で行っています。また、カテゴリーや心象・適応表現、シュタイナー教育・フレネ教育、「視覚型/触覚型」等の発表課題を設定している。	専門教育の「選択科目」であるが、小学校図画工作や中学校美術の授業実践を自信をもって行う理論学習としての意義を持つ。	小学校図画工作や中学校美術の授業の計画・立案や実践を行う際の造形美術教育に関する理解を通して理念や理論の形成を目標とする。	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1
S486002	本田悟郎	美術教育論	美術教育論の多様な視座や美術教育の歴史的展開を取り上げ、図画工作科および美術科教育、さらには社会における美術教育のあり方を考察する。	美術教育論から今日的な課題と教育観を導き、広く教育の現場に携わる上での素養を育むことに対応している。	社会や文化の現況を踏まえ、美術教育論から導かれる今日的な課題を検討し、学校や美術館の教育、また今日の社会における美術諸領域のさまざまな活動に携わる上での素養を育むことを目標とする。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S479006	梶原良成	図法 I	図は形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では美術の基礎として必要となる平面図学の基礎を主として扱う。	デザイン・工芸・絵画における図像・文様や平面計画の基礎となる平面図形の実践的な作図能力を修得して、デザイン・工芸・絵画の実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。	・デザイン・工芸・絵画における図像・文様や平面計画の基礎となる平面図形の実践的な作図能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1
S480004	梶原良成	図法 II	図は形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では美術の基礎として必要となる立体図学の基礎を主として扱う。	デザイン・工芸（プロダクトや建造物）の図面・レンダリングや絵画における図的表現の実践的な作図や読図の能力を修得して、デザイン・工芸・絵画の実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。	・デザイン・工芸（プロダクトや建造物）の図面・レンダリングや絵画における図的表現の実践的な作図や読図の能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1
S451008	株田昌彦	水彩画 I	透明水彩を用いた静物画や人物画の制作を通して、水彩画の基礎技法についての実技指導を行う。	水彩画の基礎となる内容を扱い、「絵画 I」で必要な色彩による描画法を修得し、絵画分野の基礎的実技科目としての意義を持つ。		0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S451016	株田昌彦	水彩画 II	授業の前半では、水彩画 I で習得した内容を基に透明水彩絵具を用いて細密画の実技指導を行う。後半では、アクリル絵具を用いた技法を小作品によって実践し、構想画制作の実技指導を行う。	水彩画の発展的な内容を扱う。また、アクリル絵具の特有の技法修得により、「絵画 II」の導入としての意義を持つ。	「デッサン I、II」を基礎とした観察力や描写力を生かし、透明水彩による細密表現が出来る。また、アクリル絵具を用いた技法に触れ、絵画表現の幅を広げる。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S950530	松島さくら子 他	美術演習 A	希望する美術の専門分野に基づき、担当教員（美術の専門分野—絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術理論）の指導をうけながら到達目標を定め、演習課題に取り組んでいく。	担当教員の指導を受けながら、美術の専門分野の到達目標を定め、知識と経験を深める授業である。	・自らの美術の専門分野に基づき、演習課題に取り組むことでその専門的表現について理解を深める。 ・到達目標を定め、計画的に演習課題に取り組んでいくことができる。	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950535	松島さくら子 他	美術演習B	希望する美術の専門分野に基づき、担当教員(美術の専門分野—絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術理論)の指導をうけながら到達目標を定め、演習課題に取り組んでいく。	担当教員の指導を受けながら、美術の専門分野の到達目標を定め、知識と経験を深める授業である。	・自らの美術の専門分野に基づき、演習課題に取り組むことでその専門的表現について理解を深める。 ・到達目標を定め、計画的に演習課題に取り組んでいくことができる。	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1
S456009	未定	彫塑Ⅲ	泥粘土を使用して人物をモデルに立体作品を作る	芸術文化領域の選択科目の一つとして、彫塑における量の表現について技能及び考察を深める。	●人間を含む自然物の観察力の向上●立体的表現能力と技術の習得。●教授能力を身につける	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S456018	未定	彫塑Ⅳ	泥粘土を使用して人物をモデルに立体作品を作る。	芸術文化領域の選択科目の一つとして、彫塑における量の表現について技能及び考察を深める。	●人間を含む自然物の観察力の向上。●表現能力と技術の習得をする。●教授能力を身につける。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S458005	松島さくら子	工芸Ⅰ	彫金の基礎的な表現方法を学習し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが金属素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	工芸(彫金)の基礎知識・技能を学習し、専門性を深める授業である。	・彫金の基本的な表現方法を修得し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが金属素材を通してどう表現されるのか」ということを探る。 ・金属素材と技法を通してどのような表現の可能性が見いだせるのか探りながら、工芸の多様な表現について理解を深める。	0.4	0.0	0.4	0.1	0.1
S458029	松島さくら子	工芸Ⅱ	木工芸において、材料・道具の取り扱い、加工方法を学習し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	工芸(木工)の基礎知識・技能を学習し、専門性を深める授業である。	・木材加工の基本的な材料・道具の取り扱い、表現・加工方法を習得し、テーマに沿って機能性を考慮すると共にどのような表現の可能性があるのか探りながら、「イメージが木材を通してどう表現されるのか」ということを探る。 ・工芸の多様な表現について理解を深める。	0.4	0.0	0.4	0.1	0.1
S917003	松島さくら子	工芸科教育法Ⅰ	工芸教育の役割、工芸の授業の具体的内容や進行について学習し、演習課題を取り入れながら工芸の各専門分野に関して認識を深め、これからの工芸教育の展望を考察することを目的とする。演習課題に染織をとりあげ、歴史・材料・技法を学習すると共に、工芸の授業を実践的に展開していくための具体案を作成する。	工芸分野の専門性を深め、幅広い表現方法及び指導法を学ぶ授業である。	・演習課題工程を、材料の扱い方や手順など詳細記録し、図や写真等を織り交ぜた記録ノートを作成することにより、工芸表現の理解を深める。 ・演習課題を通し、授業展開のしくみや指導法の基礎について理解することができる。	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1
S917100	松島さくら子	工芸科教育法Ⅱ	工芸教育の役割、工芸の授業の具体的内容や進行について学習し、演習課題を取り入れながら工芸の各専門分野に関して認識を深め、これからの工芸教育の展望を考察することを目的とする。演習課題に七宝・陶芸をとりあげ、歴史・材料・技法を学習すると共に、工芸の授業を実践的に展開していくための具体案を作成する。	工芸分野の専門性を深め、幅広い表現方法及び指導法を学ぶ授業である。	・演習課題工程を、材料の扱い方や手順など詳細記録し、図や写真等を織り交ぜた記録ノートを作成することにより、工芸表現の理解を深める。 ・演習課題を通し、授業展開のしくみや指導法の基礎について理解することができる。	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S481000	株田昌彦	野外美術表現演習A	屋外にて三日間にわたり、水彩画もしくは油彩画制作の実技指導を行う。	芸術文化領域の選択科目の一つとして、風景画における構図の組み立て方(視点、空間構成の要点)や素材の使用法について教授し、風景画への関心を喚起させる。また、「卒業研究」に向けた技能の向上を図る。	自然観察を通して、風景画における造形要素(形態、色彩、明暗、空間感)を意識した水彩画や油彩画の制作が出来る。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S405010	木下大輔	音楽史A	音楽通史(西洋音楽史を中心に)	音楽家あるいは音楽知識人たるために必要な、音楽史(西洋音楽史を中心に)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史を講義・演習する。	音楽家あるいは音楽知識人たるために足る、音楽史(西洋音楽史を中心に)の能力を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S4101066	木下大輔	和声Ⅲ	和声実技(その3)	音楽家あるいは音楽知識人たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)を学習する。修得目標に到達するために、和声の実技を修練する。	音楽家あるいは音楽知識人たるために足る、音楽理論(エクリチュール)の能力を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S404010	木下大輔	作曲Ⅰ	作曲実技・編曲実技(その1)	音楽家あるいは音楽知識人たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)の第1段階を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。	音楽家あるいは音楽知識人たるために足る、作曲法(編曲法を含む)の第1段階を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S409016	石野 健二	声楽Ⅲ	声楽の基礎技能を身につけ、発声法・歌唱表現の能力を高める。各自が自分自身の声の特徴を知り、各音域、各母音等の発声方法を探りながら安定した発声技術を追求める。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、声楽の表現技能を高める。	自己の声楽発声の現状を認識し、より良い発声求めて訓練を重ね、歌唱能力を高めることができる。また、その能力を生かして演奏(発表)をすることができる。	0.4	0.0	0.4	0.2	0.0
S415050	石野 健二	声楽Ⅳ	姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら学習を深める。個々の技術的な課題と取り組みながら、楽曲の演奏を通じて歌唱表現についても学び演奏能力を高める。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、声楽の表現技能を高める。	自己の声楽発声の現状を認識し、より良い発声求めて訓練を重ね、歌唱能力を高めることができる。また、その能力を生かして演奏(発表)をすることができる。	0.4	0.0	0.4	0.2	0.0
S410015	石田修一	鍵盤楽器	各時代の鍵盤楽器(ピアノ)の作品を通して、演奏の技術、表現を身につける。	芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、鍵盤楽器の基本を身につける。	ピアノの演奏技術、解釈を実技を通して学ぶ	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0
S411010	高原聡子	音楽史B	音楽通史(音楽民族学を含む)	音楽家あるいは音楽知識人たるために必要な、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史(音楽民族学を含む)を講義・演習する。	音楽家あるいは音楽知識人たるために足る、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)の能力を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S457006	梶原良成	デザインA I	平面デザイン(グラフィック、テキストスタイル・デザインなどの基礎的内容)を主とする。生活における平面メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。	平面構成Iなどで身に付けた基礎造形能力を基に、生活空間のなかでの平面メディアの創造について、実技課題に取り組むことで、平面デザインに関する基礎的な力を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。 ・課題として与えられたテーマに対して、生活の視点で造形をとらえ、そこからの発想や構想の方法の基礎を身につける。 ・デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。 	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S457014	梶原良成	デザインA II	立体・空間デザイン(プロダクト、建築・環境デザインの基礎的内容)を主とする。生活における立体・空間メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。	平面構成IIなどで身に付けた基礎造形能力を基に、生活空間のなかでの立体・空間メディアの創造について、実技課題に取り組むことで、立体・空間デザインに関する基礎的な力を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。 ・課題のテーマに対して、生活の視点で造形をとらえ、そこからの発想や構想の方法の基礎を身につける。 ・デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。 	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S406009	石野 健二	合唱	合唱の基礎を日本の現代の合唱作品、ルネサンス・ポリフォニー等を通して学んでゆきます。合唱においては、発声理論をもとにした各パートの音づくり、和音の作り方、旋律処理、旋律と和音の処理、楽曲の音楽構成、詩と音楽の融合のさせ方等、全体をコントロールすることが重要であるが、それらを実践的に学んでゆく。	芸術文化領域専門科目中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、合唱の基本を学ぶ。	合唱を作り上げてゆく際に必要な様々な工夫、また、出来上がった合唱を発表することの意義などを考えると、音楽活動の中で合唱は非常に重要な位置にある。この授業では合唱のおもしろさ、そして合唱をどのように作り上げるのかといった合唱指導の基礎を実践的に学んでゆく。	0.4	0.0	0.4	0.1	0.1
S402004	非常勤講師	和楽器	日本の伝統音楽で使われている楽器の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	芸術文化領域専門科目中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、和楽器の基本を学ぶ。	和楽器実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は日本人として必須のものであり、将来の音楽活動の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄を、篠笛等の実技を通して身につける。	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1
S407005	高島章悟	合奏 II	合奏Iの履修を踏まえた上で、合奏の基礎を実技を通して学ぶ。	芸術文化領域専門科目中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、合奏の基本を学ぶ。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
S483003	未定	美術実地調査演習	京都、奈良にある美術史上重要な作品を取り上げ講義を行い、事前調査のポイントを解説する。	芸術文化領域の選択専門科目の一つとして、古美術に関する鑑賞の能力を高め、この分野に対する興味関心を喚起する。	美術実地調査前に、関連する絵画・彫刻・建築・工芸などの歴史的背景を踏まえた造形的な特徴を理解する。また、それにより古美術作品における鑑賞の能力を高める。	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2
S487009	未定	美術実地調査	京都、奈良にある美術史上重要な作品について実地にて解説を行う。	芸術文化領域の選択専門科目の一つとして、古美術に関する鑑賞の能力を高め、この分野に対する興味関心を喚起する。	絵画・彫刻・建築・工芸などの歴史的重要な作品を実見し、美術実地調査演習で行った事前調査を基に考察を深める。また、それにより古美術作品における表現・鑑賞の能力を高める。	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S459009	株田昌彦	絵画 I	油彩画制作における基礎的な実技指導を行う。それと同時に油彩画の表現について歴史上の作品や現代作家における技法及び描法を紹介し解説する。	油彩画の基礎的な描写法について取り上げ、素材の特徴との関連を明示することで、興味関心を喚起させる。	油彩による素材の特徴を理解し、マチエール、重層、暈し、グレイジングといった技法を駆使した対象の描写が出来る。明暗による対象の立体感、空間感を表現する能力に合わせ、動勢やプロポーション、画面構成を意識した構図を考える事が出来る。作家の作品における素材の使用法を理解し、鑑賞の能力を養う。	0.3	0.0	0.2	0.4	0.1
S459017	株田昌彦	絵画 II	自由テーマによる絵画（油彩、水彩、鉛筆画、パステル等）の制作について実技指導を行う。使用素材は各自で選択し、参考とする作家の作品における表現について考察するための助言を与える。	絵画分野の発展的な内容を扱う。絵画を構想するために必要な要素（テーマ、構図、配色、表現様式等）は何かを理解し実践することで、絵画分野での「卒業研究」に向けた素養を身に付けさせる。	「デッサンⅠ、Ⅱ」、「水彩画Ⅰ、Ⅱ」、「絵画Ⅰ」で修得した内容を応用し、自己の絵画表現を構築できる。そのために、自分のテーマに即したイメージをデッサンやエスキースによって具現化し、適切な素材や表現を選ぶ事ができる。	0.3	0.0	0.2	0.4	0.1
S470005	株田昌彦	版画A	銅版画の制作手順および作品（レンブラント、駒井哲朗等）を紹介し、技法のメカニズムを講義する。それを踏まえエッチング、ソフトグラウンドエッチング、アクアチントによる作品制作の実技指導を行う。	芸術文化領域の選択科目の一つとして、銅版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。それにより、美術の教師の専門的な知識や技能、作品鑑賞能力の向上を図る。	銅版画の特性を理解し、凹版特有の表現法について関心を高めると共に、銅版画制作を実践し、彫り、腐食、刷りといった技術を修得し、間接法（腐蝕によって溝をつくる）による銅版画のメカニズムを理解する。	0.4	0.0	0.2	0.3	0.1
S470013	株田昌彦	版画B	木版画の制作手順および作品（北斎、写楽等）を紹介し、技法のメカニズムを講義する。それを踏まえ単色木版、多版多色木版による作品制作の実技指導を行う。	芸術文化領域の選択科目の一つとして、木版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。	木版画の特性を理解し、凸版特有の表現法について関心を高めると共に木版画制作を行う事により、彫刻刀の使用法、下絵の転写、色分解、刷りといった技能を修得する。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S471009	未定	彫塑Ⅴ	全身人物をモチーフに粘土制作をする。芯棒の組み方、粘土の付け方、石膏取り、テラコッタ（直付け、張り込み）方法を学ぶ	芸術文化領域の選択科目の一つとして、彫塑Ⅰ、彫塑Ⅱで学んだ事を生かし、大作の制作法を習得する。	●人間を含む自然物の観察力の向上。●立体表現能力と技術の習得をする。●教授能力を身につける。	0.2	0.0	0.4	0.3	0.1
S471017	未定	彫塑Ⅵ	全身人物をモチーフに粘土制作をする。芯棒の組み方、粘土の付け方、石膏取り、テラコッタ（直付け、張り込み）方法を学ぶ。	芸術文化領域の選択科目の一つとして、彫塑Ⅰ、彫塑Ⅱで学んだ事を生かし、大作の制作法を習得する。	●人間を含む自然物の観察力の向上。●立体表現能力と技術の習得をする。●教授能力を身につける。	0.2	0.0	0.4	0.3	0.1
S476027	松島さくら子	工芸Ⅲ	漆工芸の基礎表現技法（乾漆他）を学習し、テーマ「面」について、機能性を考慮すると共に「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	工芸（漆工芸）の基礎知識・技能を学習し、専門性を深める授業である。	・テーマに沿った課題に取り組むことにより、工芸の多様な表現について理解を深める。 ・漆工芸の知識と技能を通し、日本の工芸美術の変遷を理解できるようになる。	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S476033	松島さくら子	工芸IV	設定されたテーマ「器」について、その機能・用途・表現方法を追求しながら、漆芸・陶芸・金工・木工などの素材を用いた表現技法にて、イメージが素材を通してどう表現されるのか、どのような表現の可能性が見いだせるかということ表現していく実技授業である。	工芸IIaまでに経験した工芸表現をさらに応用し深め、専門性を深める授業である。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った課題の取り組みにて、自ら具体的な表現形態を設定し、自己表現形成能力を深める。 ・素材や表現方法を選択し、表現に必要な道具や加工方法を絞り、課題作品を実現させることにより、工芸の多様な表現について理解を深める。 	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1
S482007	株田昌彦	野外美術表現演習B	屋外にて三日間にわたり、水彩画もしくは油彩画制作の実技指導を行う。	芸術文化領域の選択科目の一つとして、風景画における構図の組み立て方(視点、空間構成の要点)や素材の使用法について教授し、風景画への関心を喚起させる。また、「卒業研究」に向けた技能の向上を図る。	自然観察を通して、風景画における造形要素(形態、色彩、明暗、空間感)を意識した水彩画や油彩画の制作が出来る。	0.3	0.0	0.3	0.3	0.1
S473004	梶原良成	デザインB I	グラフィック・デザイン分野を主とする(映像メディア表現を含む)。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行なう。また、コンピュータ(グラフィック・ソフト)を使用して、コンピュータならではの表現技法について指導する。	デザインA Iで身に付けた平面デザインに関する基礎的な力をもとに、広がりを持った現実の生活環境における情報の伝達について実技課題を設定し、それに取り組むことでグラフィックデザインなどの総合的な能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のテーマについて、対象のありかたに見合ったデザインプロセスを各自設定して、取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマについて、社会的なメディアとして総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。 	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2
S473012	梶原良成	デザインB II	プロダクトデザイン、建築・環境デザイン分野を主とする。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行う。また図面や模型・レンダリングなどのプレゼンテーション技法もあわせて指導する。	デザインA IIで身に付けた立体・空間デザインに関する基礎的な力をもとに、広がりを持った現実の生活環境におけるモノや空間について実技課題を設定し、それに取り組むことでプロダクトデザイン、建築・環境デザインなどの総合的な能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のテーマについて、対象のありかたに見合ったデザインプロセスを身に付けて取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマをその社会的なメディアとして総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。 	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2
S950540	中島 望	藝術学概論	多様化する藝術とその作品に関わるさまざまな課題を探究する半期講座。藝術文化の諸分野、美学・藝術学、音楽学、美術学などの専門書を手がかりに、藝術文化に対する学問的アプローチの基礎を身につけていく。	藝術学概論のテーマは「藝術とは何か」といった基本的な問いからはじまる。各分野の専門的な考察を展開する前に、美・藝術・感性・情動についてを哲学として学ぶ。今日の藝術の問題、あるいは閉塞的な状況を切り拓く手がかりとして、東西の古典的文献から学び、考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学の一分野としての美学・藝術学の主要な考え方、概念を知る。 ・文献講読などを通して、各専門分野における今日の課題など藝術理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S403000	高島章悟	指揮法	この授業では、指揮法の基本と、音楽作りの関係を実践的に学び、合唱、合奏グループを指導する際に必要な技術習得を内容としている。	芸術文化領域専門科目中の音楽に関する実技科目。芸術における演奏表現の一つ、指揮法の基本を学ぶ。	指揮は、腕・指揮棒を振る(だけ)という、一見単純・簡単な行為に見えるが、そのメカニズムは意外と複雑である。指揮者として音楽を作り上げるという実践の中では、演奏者と呼吸を合わせることや、人間的にコミュニケーションをとることと同等に、指揮のテクニックが必要になる。	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2
S404020	木下大輔	作曲Ⅱ	作曲実技・編曲実技(その2)	音楽家あるいは音楽知識人たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)の第2段階を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。	音楽家あるいは音楽知識人たるために足る、作曲法(編曲法を含む)の第2段階を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S425100	木下大輔	音楽分析	楽曲分析実践	音楽家あるいは音楽知識人たるために必要な、音楽分析を学習する。修得目標に到達するために、楽曲分析を実践する。	音楽家あるいは音楽知識人たるために足る、音楽分析の能力を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S910602	中島 望	書藝制作	書の個人表現を通して、臨書で培った技法を発展的に深める半期講座。書藝制作では、漢字、かな、調和体、工芸書の中からテーマを選択し、会場芸術としての形式を保つ作品制作を行う。	書藝制作は、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。なお、作品制作の行程から、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・今日的表現形式を参照し、臨書で培った技法を発展的に深める。 ・現代書の制作を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S910904	中島 望	書道教育法Ⅰ	高等学校芸術科「書道Ⅰ」の目標、内容を理解し、それに沿った指導法、臨書と創作などの基礎的な技法の習得を目指す半期講座。教員に求められる資質能力、生徒や教育の在り方についての適切な理解、教職への愛着実践力を身につけていく。	書道教育法Ⅰは、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。講義を通して、書の伝統への理解を深め、指導法のみならず理論、臨書力、鑑賞力などを養う。なお、各単元目標における教材研究の必要から、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・芸術科「書道」の教材研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・芸術科指導の意義と目的を理解し、効果的な指導法の考案と実践の力を養う。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S911005	中島 望	書道教育法Ⅱ	高等学校芸術科「書道Ⅱ・Ⅲ」の目標、内容を理解し、それに沿った指導法、臨書と創作などの基礎的な技法の習得を目指す半期講座。教員に求められる資質能力、生徒や教育の在り方についての適切な理解、教職への愛着実践力を身につけていく。	書道教育法Ⅱは、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。講義を通して、書の伝統への理解を深め、指導法のみならず理論、臨書力、鑑賞力などを養う。なお、各単元目標における教材研究の必要から、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	・芸術科「書道」の教材研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・芸術科指導の意義と目的を理解し、効果的な指導法の考案と実践の力を養う。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S220002	中島 望	書道史	中国の書法史から、現代日本の書字教育、藝術教育に至るまでの歴史を振り返る半期講座。日本の書道の歴史は漢字の渡来から始まり、常に中国や朝鮮の影響下に展開してきたが、その公的・私的・古典性・現代性・美術性・工芸性といったさまざまな性格を視察する。	書の歴史は文字の歴史から個人表現の歴史へと移り変わった。文字はすべての文化の基礎であり、時代性を反映しながら変遷してきた。個人表現の歴史をどのように捉えるか。それが書道史を正しく捉える捉え方となる。さまざまな性格をもつ文字と書だけに、国、時代ごとに異なる歴史や鑑賞法についても考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上、文字が果たしてきた役割と意義に関心をもつ。 ・文化史として、文学や美術、工芸の歴史との関係を理解する。 ・文字と書の変遷について、書体、書風を中心に鑑賞（臨書）する力を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S910700	中島 望	書藝美学	書とその芸術性について主体的に考える半期講座。書藝美学では、日本独自の藝術思想といえる「書道」を起点とし、茶の湯・花道・能・狂言などを含め、東西の美学を比較しながら書の本質を考察する。	書藝美学（書論・鑑賞）は、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。講義を通して、書の伝統への理解を深め、理論、鑑賞力、指導力などを養う。なお、古典的書論については読書によって知識を習得できるため、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・古典的書論から現代「語論」を読み解き、自らの書論を確立する。 ・書とその周辺の問題を多角的に視察し、指導力を培うと同時に書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S950545	全教員	藝術文化演習 I	卒業研究Aに繋がる半期講座。藝術文化演習は前期にI、後期にIIを開講する。原則として本科目で選んだ研究室が卒業研究に繋がるため、事前に各自の研究テーマを決定しておく必要がある。藝術文化演習I・IIの内容は卒業研究への準備課題であり、その内容は研究室ごとに異なるが、各自のテーマに応じて指導助言を受ける。	藝術文化演習Iは卒業研究の準備であり、研究室ごとにゼミ形式で行うが、各自に計画性、継続性が求められる。専門書の講読やフィールド調査、作品の分析など、夏季休暇中に行うことも想定する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自でテーマを設定し、段階的に目標を計画的に定める力を養う。 ・課題解決を進めるに当たっての計画や実験・解析方法などの検討が担当教員指導下で自主的に実施できる。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S950550	全教員	藝術文化演習 II	藝術文化演習Iを経て、卒業研究Aに繋がる半期講座。藝術文化演習IIでは、Iで設定した課題の進捗、成果などを検証・評価し、それを基にさらなる研究への関心を促す。	藝術文化演習I・IIは卒業研究の準備であり、研究室ごとにゼミ形式で行うが、年度末に研究発表を実施するため、夏季休暇期間中より計画を行い、継続して卒業研究を進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で進める研究テーマの背景や社会的意義が理解できる。 ・文献講読や資料収集といった活動を通して、それらの読解、理解を高める。 ・研究で実施した実験・解析結果を作品や論文にまとめ、他者にわかりやすく説明することができる。 	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S211003	森田香緒里	国語表現法 I	論理的文章を作成するために必要な作文技術を、講義及び実技を通して速成する。具体的には、西洋で1500年にわたって行われた「プロギュムナスマタ」と呼ばれる作文訓練方法を現代風にアレンジして用いる。特にIでは、要約、引用、敷衍、例証等の技術を扱う。授業では、作文課題についての講義を行った上で、実際に文章を書かせ、相互批評を行う。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目。作文を書いて相互批評を行う活動を通じて、自らの書く力の向上を図り、国語教員に必要な作文技術を修得する。同時に、作文指導に関する知識・理解も修得する。この科目は、3年次で、「国語教育演習I・II」を受講するための必須科目である。	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的文章を書くために必要な作文技術について理解する。 ・西洋の伝統的な作文指導に関する理解を通して、日本の作文指導の現代的課題について考察する。 ・多声的・複声的な文章や、譬え・実例等をともなった説得的な文章が書けるようになる。 	0.6	0.1	0.0	0.3	0.0

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (芸術文化領域)

学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	全教員	卒業研究A	「芸術文化演習Ⅰ・Ⅱ」の履修を踏まえ、専門教員の指導のもと、集約、または発展させた研究を行い、卒業論文・卒業制作として結実する。	芸術文化の領域において、各自がこれまで身につけてきた知見や表現技術をもとに、その集大成としての作品制作や論文執筆を行う。	・各自が設定する自己設計カリキュラムの到達目標を、より創造的な論文執筆や作品制作を行うことができる。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1